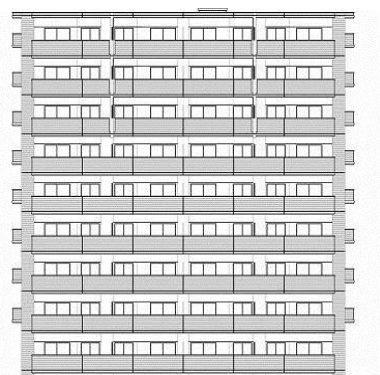
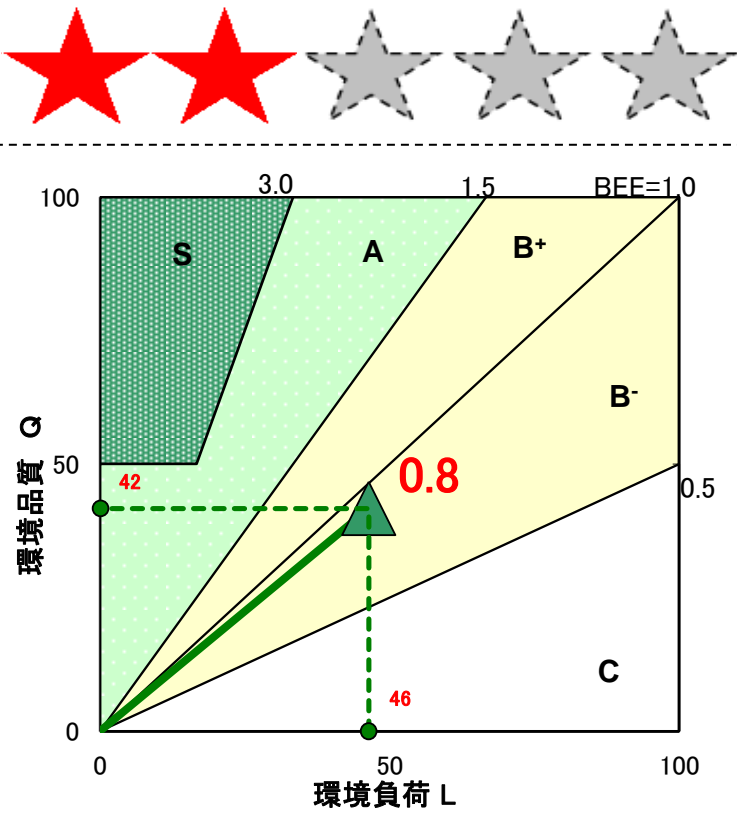


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)菊陽原水マンション新築工事	階数	地上9F	 ださい。	
建設地	菊池郡菊陽町大字原水字南下原13	構造	RC造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	99 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年2月5日		
敷地面積	1,696 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	278 m <sup>2</sup>	確認日	2014年2月7日		
延床面積	2,048 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

**BEE = 0.8**

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



排出率

**94%**

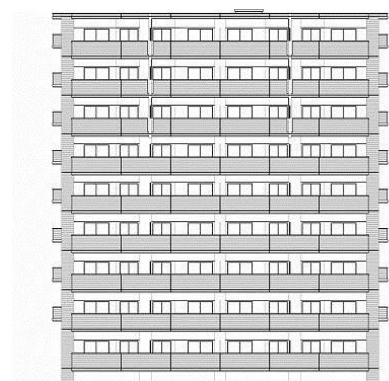
## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		<b>67</b>												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	66.5												
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	68.7												
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	55.0												
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	78.0												
<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満		
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
※評価点は、100点以上が推奨です。														

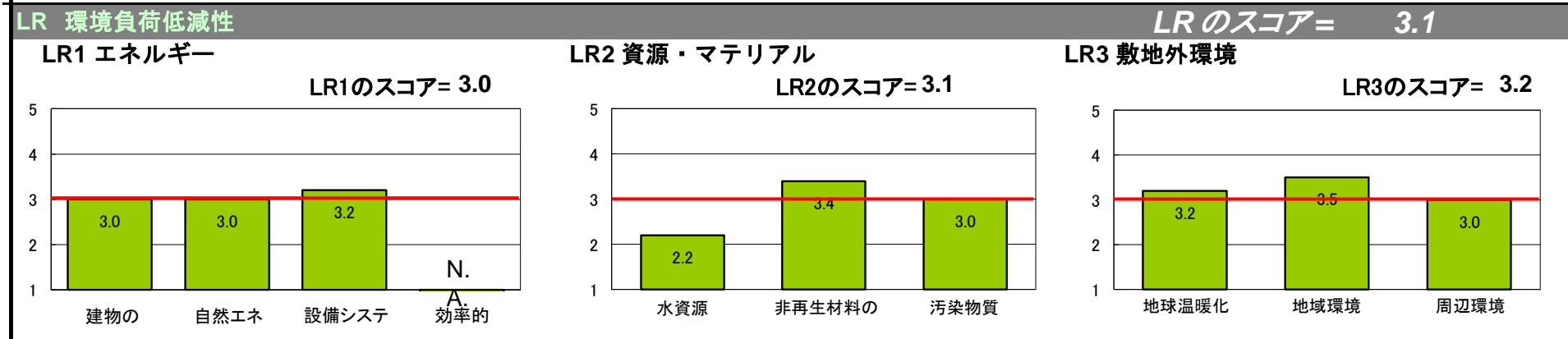
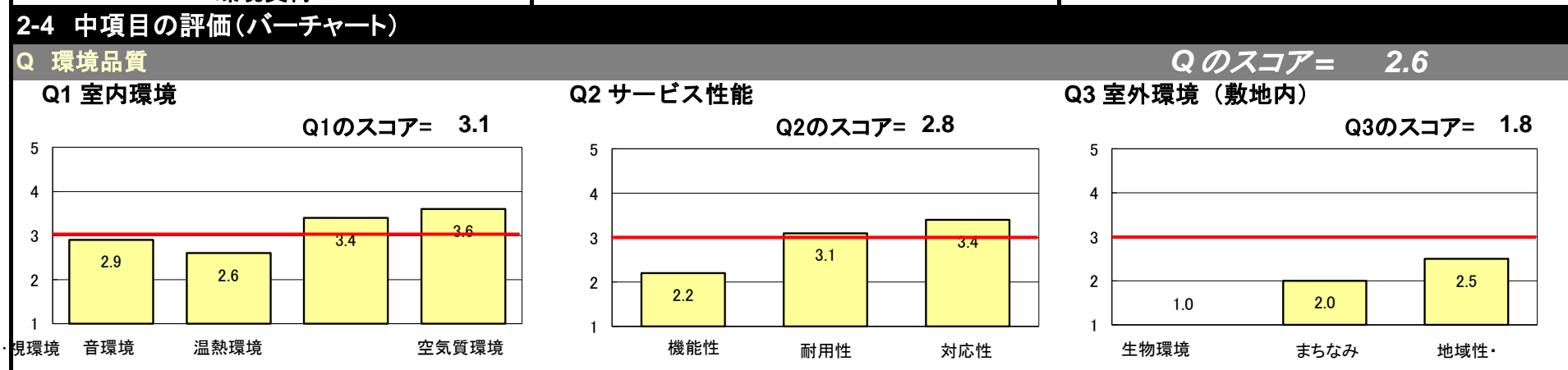
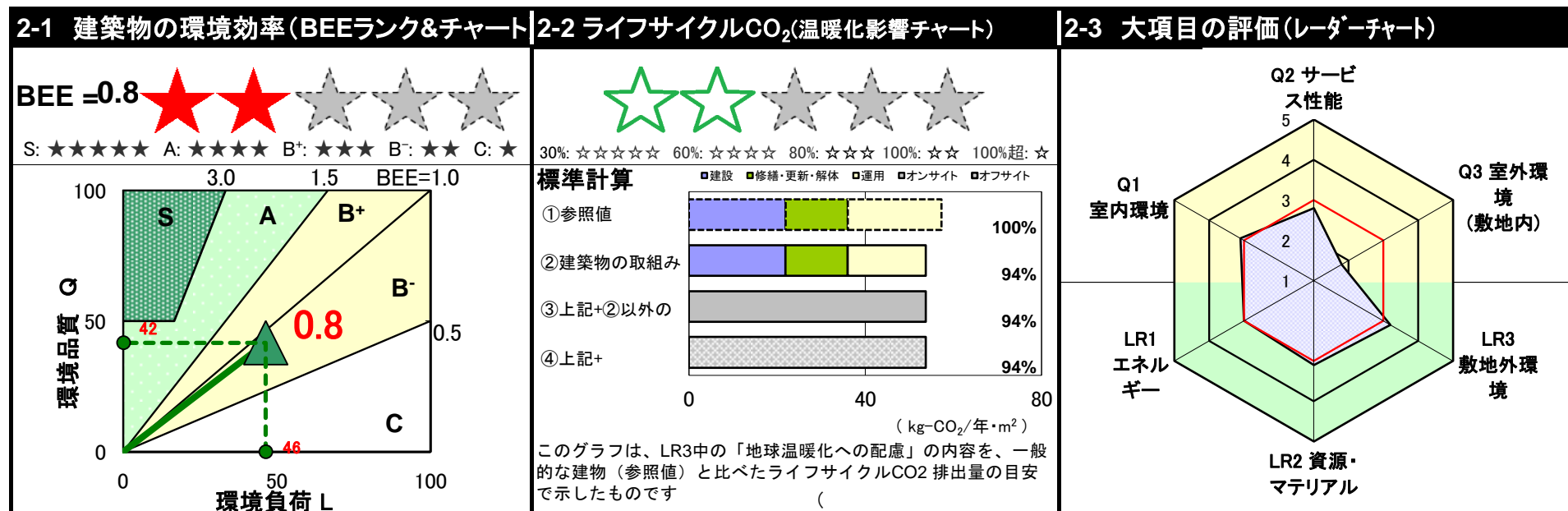
# CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)菊陽原水マンション新築工事	階数	地上9F
建設地	菊池郡菊陽町大字原水字南下原13	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	99 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年2月5日
敷地面積	1,696 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	278 m <sup>2</sup>	確認日	2014年2月7日
延床面積	2,048 m <sup>2</sup>	確認者	



ださい。



### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		重点事項の評価 (レーダーチャート)
<p>評価点 = 67</p>		<p>排出量削減の推進: 125                  安全安心で暮らしやすい社会の実現: 100                  循環型社会の実現: 75                  県の地域資源の活用: 50</p>
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 67	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 69	
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 55	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 78	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**(仮称)新陽原水マンション新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		-	-	<b>2.9</b>	1.00			<b>2.9</b>
<b>1.1 騒音</b>		-	-	<b>3.5</b>	0.50			
1 室内騒音レベル		-	-	<b>4.0</b>	0.50			
2 設備騒音対策		-	-	<b>3.0</b>	0.50			
<b>1.2 遮音</b>		-	-	<b>2.4</b>	0.50			
1 開口部遮音性能		-	-	<b>1.0</b>	0.30			
2 界壁遮音性能		-	-	<b>3.0</b>	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	<b>3.0</b>	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	<b>3.0</b>	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		-	-	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.0</b>	0.41	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.6</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温		-	-	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		-	-	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		-	-	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.29	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.4</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光率		-	-	<b>5.0</b>	0.50			
2 方位別開口		-	-	<b>3.0</b>	0.30			
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.29	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38			
1 換気量		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.33			
2 自然換気性能		-	-	<b>3.0</b>	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	<b>3.0</b>	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		-	-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>2.2</b>	1.00			<b>2.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>2.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	<b>2.0</b>	1.00			
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	<b>4.0</b>	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	-			<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル	<b>5.0</b>	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	Bを使用(給水・排水)	<b>5.0</b>	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			



2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.5	1.00
3.1 空間のゆとり			-	-	4.0	0.50
1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		-	-	4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	構造部材仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率機器(照明)	3.2	0.40	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0			
集合住宅の評価			3.2			
4 効率的運用			-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			2.2	0.15	-	-
1.1 節水			1.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	パーティクルボード	3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁:木下地、GL工法	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-
3	冷媒		-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		リサイクル材の使用	3.2	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比166.89%、隣棟間隔指標1.05%	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

主用途である共同住宅としての機能を重視し、南面を主採光として配置計画を行った。

### Q1 室内環境

・F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。

### Q2 サービス性能

- ・給排水管には耐久性の高い材料を選択し、長寿命化を図っている。
- ・外壁の仕上げでは、耐用年数の長いタイル張とした。

### Q3 室外環境（敷地内）

・周辺景観に配慮した、外観デザインとした。

### LR1 エネルギー

- ・各住戸の構造熱橋となる部分を断熱補強し性能を高めた。
- ・共用部の照明設備は高効率のものを採用している。

### LR2 資源・マテリアル

・リサイクル資材を採用し自然環境の保全に努めた。

### LR3 敷地外環境

・敷地内に適切な駐車場と駐輪場を確保した。

### その他

# 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

**建物名称** (仮称)菊陽原水マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	66.9	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				66.5	0.40	26.60
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				55	0.20	11.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				78	0.20	15.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

 総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

 評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数